

# 宗岡二中だより 7月号



令和7年7月1日

自ら学び考える生徒

学校教育目標：心豊かな優しい生徒

明るく元気な生徒

## 笑う門には福来る

校長 伊藤大輔

ある門番の話を紹介します。その国にはいくつかの村があり、それぞれの村人たちが村を行き来しながら暮らしていました。ある村の入り口には門番がいて、他の村から来た人は必ずそこを通らなければならない決まりがありました。ある若者が「ここはどんな村ですか」と尋ねました。すると門番は、「そうですねえ、あなたが今までいた村はどんな村でしたか。」と聞き返します。若者が「私の村は、ひどい村でした」と答えました。すると門番は、「ここもたぶん同じような村だと思うよ」と答えました。また別の若者が、「ここはどんな所ですか」と聞きます。門番は「そうですねえ、あなたが今までいた所は、どんな所でしたか」と聞き返します。するとその若者は「私がいた所は、とても素敵なお所でしたよ」と答えました。門番は「ここもたぶん同じような所だと思うよ」と答えました。たったこれだけの話です。みなさんはどう思いますか。私なりの考えを以下に述べます。

門番は若者の問いには答えずに、いつも同じことを聞き返します。ところが、それに答える若者たちはまったく別の考えをもっています。そして「ここもたぶん同じような村だと思うよ」と門番は素っ気なく言い放ちます。この素っ気なさに私はひかれます。あえて淡々と接することで、村の姿がどう映るかは「あなた次第だ」と若者に気付かせようとしているからです。未知の世界に入ろうとする人が不安や期待を抱くのは当然です。しかし、そうした感情と対話を重ねながら前に進むのは自分です。今の自分です。

話を広げます。過去と未来をどう繋ぐのかは今の自分の在り様にかかっています。勉強も仕事も人生も同じです。自分が何を目的とし、自分はどうかありたいか。すべてはそこから始まります。そしてすべて

はそこに帰結します。そうであれば、周りや他人のせいにならないで、自分が本気になって自分が楽しむ道を選んだほうがよいと私は思います。

フランスにアランというペンネームで知られる哲学者がいます。『幸福論』は今も多くの愛読者を持つと言われていています。彼の言葉に「幸福な人は、幸福だから笑っているわけではない。笑っているから幸福になれるのだ」とあります。自分が幸せになるために必要なことは、誰かによって与えられるものではありません。自分が笑顔になることで今ある幸せに気付くのです。不満に押しつぶされて笑顔を忘れてしまうと人は寄り付きません。逆に笑顔の人のもとに人は集まります。幸せな気持ち、笑顔は、自分で作るものだということです。

「我々の社会は、求めようとしない者には何ひとつ与えない。」これもアランの残した言葉です。大会の壮行会で私があえて「勝ち」にこだわれ！と鼓舞(こぶ)した理由も、この言葉に影響を受けたからです。要は、大会を単なるイベントではなく自分事にしてほしかったのです。あらゆることを自分に関連した出来事として捉えようとする人は強いです。たとえ試合に負けたとしても、その経験を自分の栄養に変えることができる人です。勉強でも部活でも仕事でも、前向きになれる人です。

さて一学期が終了に向かいます。ここまでの在り方(過去)から学び、ここからの在り方(未来)を生み出すために、ここでの在り方(現在)にしっかりと正対しましょう。間もなく夏休みも始まります。自分の考えと判断で責任を持って行動できる宗二中生、そして誰からも応援される宗二中生であってほしいと心から願っています。